

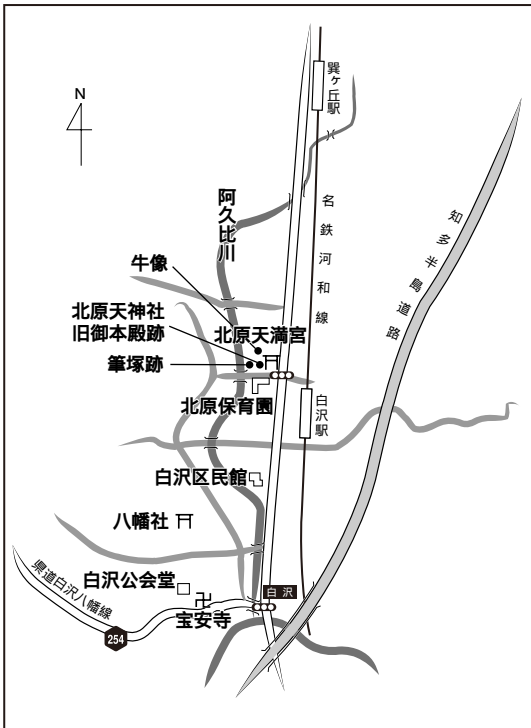
ジゴウマワ ナリマスタウニ



シリーズ

阿久比を歩く 104

あぐいぶらり旅 石造物を巡る(板山・福佳・白沢コース⑤)



“天神”の神使「牛像」

白沢地区を巡った。北原天満宮に行き、「北原天神社旧御本殿跡」、「筆塚跡」、「牛像」の石造物を見た。境内に入つてすぐ左の方に「北原天神社旧御本殿跡」と「筆塚跡」の石碑が建ち、奥に進んだ本殿右前に「牛像」が置かれる。

阿久比の郷を開いたといわれる、菅原道真公の孫「英比磨」。北原天神社は、天曆九（九五五）年英比磨の住居跡に建てられたとされる。明治十一年、別の場所にある白沢八幡社に合祀。「北原天神社旧御本殿跡」の石碑は、昭和八年に神社の旧跡地を記念して建てられる。その後昭和六十三年、地元の氏子らの手によって旧跡地に本殿再建築が実現し、現在の北原天満宮となる。

北原天満宮は、菅原道真公がまつられる。道真公は「学問の神様」で知られる。江戸時代後期から明治時代初期にかけて、子どもたちは寺子屋で「読み・書き・そろばん」を学んだ。

道真公にあやかると、寺子屋で学んだ子どもたちは使い古した筆を神社に献上して、習字の上達祈願をしたらしい。筆塚は筆を埋めた供養跡。

「僕は字が下手なんだよね。子どもたちに、字はていねいに書きなさいと言っただけで、自分の書く字が下手だから説得力がないんだよね。」友人は「職場の机の上にメモが乗ってましたけど、読むのに苦労しましたよ」と笑みを浮かべながら話す。

「牛像」の前に進む。なで牛は「天神」の神使。牛をやさしくなでながら心を込めて願いごとをするとご利益があると言われる。半年過ぎて忘れかけているが、今年の干支は「丑」。いつもの年よりも多くの人が願いごとをしたことだろう。私たちも牛をなでながら「……」「……」。

境内をぶらぶらしていると、「どこかで見えた顔が近づいてくる。職場の後輩だ。「うわさの「ぶらり旅」ですか。」そうだよ。とっつて「……」。

「目の前の病院で子どもが生まれまして。二人の姿が見えたので。「それはおめでどう。ここは学問の神様まつられているから、生まれてきた子が賢くなるように祈るといいかもよ。」思わぬ朗報。牛像の前に戻り、生まれてきた子のために三人で牛をなでた。



「筆塚跡」の石碑